

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
運動学 I		(作) 必修 (福.人) 選択	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
久保田 茂希	講師控室	Shigeki.kubota	金曜 9:00~10:30		
授業の目的・概要	運動器の構造および機能的な知識、身体力学を中心に理解を深め、ヒトの運動や動作を的確に判断できるようになることを目的とする。また、2 年次以降の演習・実習等にて必要となる基礎的知識の習得を目的とする。講義や質疑応答を行うオンラインの遠隔授業を実施し、終了後は授業内容による課題を提示する。その後フィードバックとして課題の解答提示・指導を行い授業内容の理解を深める。また、知識の習得を確認するため、毎回オンライン上で小テストを実施する。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他 (小テスト) <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	この授業では解剖学・生理学で学んだ知識が必要となるので、解剖学 I ・生理学 I の教科書や資料を復習しておくことが望ましい。 授業で学んだ知識は使える知識となるまで反復学習 (書く、読む、体を動かすなど) を行いインプットする。そして学生同士で確認や説明し合い、アウトプットの機会を多く行う。インプットとアウトプットするまでの過程を繰り返し行うことで学習効果が高まる。				
教科書	筋骨格系のキネジオロジー 第 3 版 著: Donald A. Neumann 出版: 医歯薬出版				
参考書	基礎運動学 第 6 版補訂 著: 中村隆一他 出版: 医歯薬出版				
外部教材	Anatomy: Musculoskeletal and Integumentary Systems, University of Michigan(MichiganX) Kathleen Alsup, edX				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	身体運動・評価法に関する用語を正しく理解し、適切に使用し説明できる。			OT (2)	
②	上肢の骨格筋、関節の機能と役割を説明できる。			OT (2)	
③	下肢の骨格筋、関節の機能と役割を説明できる。			OT (2)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 運動学総論①: 身体の運動の面と軸について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 1 章を読み、関節運動、その面と軸について復習する。	4	
2	運動学総論②: 生体力学について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 1 章を読み、生体力学について復習する。	4	
3	運動学総論③: 運動器の構造と機能について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 2 章を読み、骨・関節の機能と構造について復習する。	4	
4	運動学総論④: 骨格筋の機能と構造、筋収縮、運動単位について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 3 章を読み、筋の機能と構造について復習する。	4	
5	肩複合体 (胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲上腕関節、肩甲胸郭関節) の構造について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 5 章を読み、肩複合体の構造について復習する。	4	
6	肩複合体 (胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲上腕関節、肩甲胸郭関節) の関節運動・筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 5 章を読み、肩複合体の運動について復習する。	4	
7	肘関節の構造、関節運動、筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 6 章を読み、肘関節、前腕の運動について復習する。	4	
8	手関節の構造、関節運動、筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 7 章を読み、手関節の運動について復習する。	4	
9	手指の構造、機能について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 8 章を読み、手指の構造について復習する。	4	
10	手指の関節運動、筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 8 章を読み、手指の運動について復習する。	4	
11	股関節の構造、機能について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 12 章を読み、股関節の構造について復習する。	4	
12	股関節の関節運動、筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 12 章を読み、股関節の運動について復習する。	4	

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

13	膝関節の構造、機能について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 13 章を読み、膝関節の構造について復習する。	4
14	膝関節の関節運動、筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 13 章を読み、膝関節の運動について復習する。	4
15	足関節・足部の構造、関節運動、筋について学習する。	同時双方向型授業	教科書の第 14 章を読み、足関節、足部の運動について復習する。	4
試	定期試験			

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	90	0	0	0	0	90
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	小テスト（14 点）と定期試験（86 点）を実施して評価する。授業中に使用した教科書の範囲と配布したプリントの中から基本的な内容に関して出題する。すべての領域について基本的な内容が理解され医学用語が正確に書けるかを問う。満点を 86 点とする。小テストは Forms を使って授業開始時に実施する。小テストは前回の授業内容の範囲、定期試験は全範囲とする。	試験終了後に試験についての振り返りを遠隔授業にて行い、正誤を確認する。
	②	✓		
	③	✓		
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	なし
教員の実務経験	作業療法士免許を有したのち 10 年以上の臨床業務経験を有する。

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

実践的授業の内容	臨床での運動学の知識の活用や疾患の説明を加えることにより、実践的な運動学に関する知識と技術の獲得を促す。
そ の 他	<p>Teams を使った同時双方向型授業を行います。授業時は通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推奨します。課題ダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意してください。</p> <p>小テストは授業開始時 Forms にて実施しますが、時間内に回答できない場合は成績に反映されるので注意してください。</p> <p>遠隔授業を妨げる行為をした学生は退室をしてもらいます。</p> <p>今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。</p>